

新名所「舌震の」恋“吊橋”お披露目

「鬼の舌震を堪能できるバリアフリー遊歩道も開通」

島根県立自然公園「鬼の舌震」内において、観光資源活用事業として平成二十年度から整備が始まった吊橋とバリアフリー遊歩道完成にともなうオープニングセレモニーが、十月二十五日に行われました。

当日はあいにくの雨模様で、式典は公園内の舌震亭にて行われ、関係者約四十人が集まる中、若月勝久農林土木課長により事業経過が報告されました。

式辞の中で井上町長は「私が島根県教育委員会にいたころに、岩田元町長が舌震整備に協力してほしいと県庁にいらしたことを懐かしく思い出した。岩田元町長の悲願が本日成就し、ご協力いただいた皆さんに心から感謝したい」とお礼を述べました。

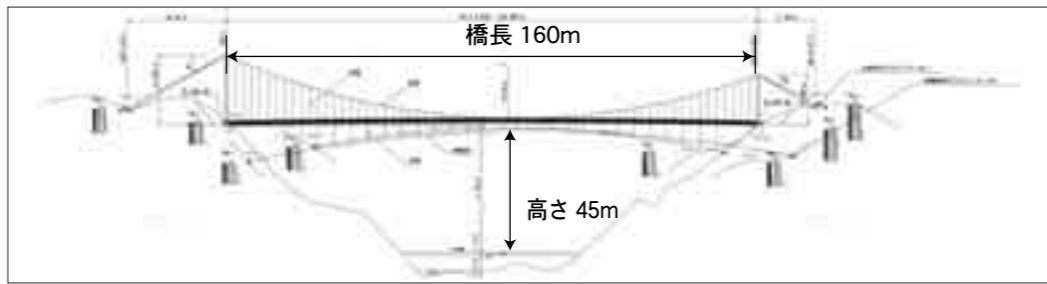
以前整備された上流部バリアフリー遊歩道とつながる形で、下流部の遊歩道と吊橋を今回整備したことにより、車いすでも舌震の全てを堪能できるようになりました。

吊橋の名称については、応募されたものを基に商工会などのメンバーを中心とした選考委員で協議した結果、出雲国風土記に記された鬼の舌震の語源「和仁の恋慕う」から、「舌震の」恋“吊橋”と命名されました。

この新名所が今後新たな観光客を呼び込む起爆剤になることを、関係者全員で祈願しました。

【事業概要】

(事業名) 観光資源活用事業
 (実施年度) 平成二十年度から平成二十五年まで
 (総事業費) 七億六千七十九万円
 (財源) 起債(辺地債) 七億六千万円



奥出雲町観光大使

すさのおくん
いなたひめちゃん
誕生

「奥出雲観光文化協会 設立」

従来よりあった奥出雲観光協会を改組し、井上町長を会長とする組織体制「奥出雲観光文化協会」として新たに設立することとなり、その総会が十月二十一日、役場仁多庁舎で開催されました。

すさのおくんは、横田地区にある島根デザイン専門学校に在籍するデザイン専攻の学生によりデザインされたもので、古事記に登場するスサノオをモチーフに作成されています。

理事により新体制が承認された後、植田良二副会長(奥出雲町商工会会長)より同協会顧問となる山陰中央新報社特別論説委員 前田幸二氏に委嘱状が渡されました。

すさのおくんは、今まで使用していたイラストを参考に立体化したものです。二人の観光大使は、「観光イベントをするときは是非呼んでください」とアピールしました。

総会の終わりには、新たに奥出雲町観光大使をつとめるマスケットキャラクター「す

さのおくん(左)といなたひめちゃん(右)が誕生しました。



▲すさのおくん(左)といなたひめちゃん



▲植田副会長から委嘱状を受け取る前田顧問(右)

千原祥道元奥出雲町議会議長(三成) 旭日小綬章 受章

秋の叙勲



千原元議長は、昭和五十年五月、旧仁多町議会議員に当選以来八期二十九年十一月、合併後の奥出雲町議会議員として二期八年の永きに渡り、地方自治の発展と住民福祉の向上にご尽力されました。

その間、旧仁多町議会議長を十三年十一月、奥出雲町議会議長を七年と要職を歴任され、豊富な経験と卓抜なる識見により円滑な議会運営に努められました。

また、その活躍は町内にとどまらず、島根県町村議会議長会の会長として県内町村議長を牽引し、更には全国豪雪地帯町村議長会の副会長も務め、全国の豪雪地帯自治体と連携しながら国へ対し強力な要請活動を展開、豪雪地帯の発展にも貢献されました。

今回その功績が認められ、受章の栄に浴されました。

おめでとうございます。

吉川忠夫さん(三沢) 法務大臣表彰

人権擁護活動に尽力された人権擁護委員に対する法務大臣表彰が十月二十一日法務省において行われ、三沢地区の吉川忠夫さんが受賞されました。

吉川さんは、平成十四年に人権擁護委員として委嘱を受けると、施設等で展不する「人権パネル」の作成や「人権しおり作り」を地域で実施するなど、地域住民への啓発活動を積極的に取り組まれました。

さらに、その穏健で誠実な人柄をもって人権相談などにも貢献され、今回それらの功績が認められての受賞となりました。

おめでとうございます。



鯛ノ巣の自然を守る会(阿井) 環境省表彰

阿井地区にある鯛ノ巣山(標高一〇二六メートル)の登山道などの維持管理へ顕著な功績があったと認められ、鯛ノ巣の自然を守る会(影山豊幸会長)へ環境省より自然歩道関係功労者表彰が贈られました。

同会は小学校のPTAや自治会長会などで構成されており、登山道の維持管理だけでなく、登山指導や自然観察会など様々な活動をされています。同表彰は「全国・自然歩道を歩こう月間」に合わせ行われており、今回は全国で一〇団体のみ選ばれました。

受賞、おめでとうございます。

